

Senzoku Gakuen College of Music
Green-Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学
グリーン・タイウインド・アンサンブル
演奏会



2021.7.13

18:00 開演

17:30 開場 / 17:50 プレトーク / 20:00 終演予定

洗足学園 前田ホール



主催

洗足学園音楽大学・大学院



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

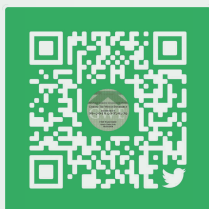
- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場して下さい。
- ・客室内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

電子プログラムについてのお願い

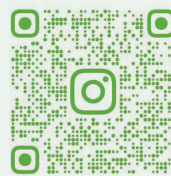
- ・客席内は電波を遮断しておりますので、ダウンロードは、ロビーなどインターネットに繋がる環境にてお願いします。
- ・演奏中のスマホ、タブレット端末等電源オフの必要はありません。ただ、不用意に音が出ないように留意願います。
- ・基本的には、演奏中のプログラムの閲覧はご遠慮いただき、ぜひ、演奏に目や耳を傾けていただけたらと思います。しかし、もし演奏中にプログラムをご覧になりたい場合には、周りのお客様のご迷惑にならないよう、画面の明るさなどにご配慮をお願い申し上げます。

洗足学園音楽大学
グリーン・タイ ウインド・アンサンブル演奏会に
ご来場いただき
ありがとうございます
最後までごゆっくりお楽しみください

Twitter



Instagram



SENZOKU.GWE

ぐりんぐりん吹奏楽!Green-Tie Tube

 YouTube



Facebook





指揮：藤岡幸夫 Fujioka, Sachio

関西フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者

Principal Conductor of
the Kansai Philharmonic Orchestra

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
首席客演指揮者

Principal Guest Conductor of
the Tokyo City Philharmonic Orchestra

1962年東京生まれ。故・渡邊暁雄の最後の愛弟子。サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。

日本フィル指揮研究員を経て1990年に英国王立ノーザン音楽大学指揮科に入学。奨学金特待生に選ばれる他、数多くの賞を受賞。1992年マンチェスターにて最も才能ある若手英国人指揮者に贈られる「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を日本人にもかかわらず特例で受賞。

1993年BBCフィルの定期演奏会に出演し「タイムズ」紙などで高く評価され、翌1994年副指揮者に就任。同年、ロンドン夏の風物詩「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー、大成功を収める。以降ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等多くの海外オーケストラに客演。スペインでのオペラ公演デビューとなった2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場ブリテン「ねじの回転」がその年の同劇場の新演出オペラのベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに選ばれると、2009年にはR. シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び脚光を浴びた。2016年3月にはブリュッセルでオーギュスタン・デュメイ、ヴァレリー・アファナシエフと共演。2017年5月にはアイルランド国立交響楽団にマーラーの第5交響曲で客演、聴衆総立ちの大成功を収めた。

マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団指揮者を経て、現在関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者を務める。毎年40公演以上を共演し2021年に22年目のシーズンを迎える関西フィルとの一体感溢れる演奏は常に高い評価を得、2019年4月に就任した東京シティ・フィルとの今後の活動にも大きな期待が寄せられている。

英シャンドスと契約し、これまでにBBCフィルと8枚のCDをリリース。また関西フィルとはALM RECORDSにシベリウス交響曲全曲録音を進行中。

大晦日のテレビ東京系全国ネット「東急ジルバスター・コンサート」に2回、2012年NHK大河ドラマ「平清盛」の劇中音楽の指揮、「題名のない音楽会」をはじめとするテレビ、ラジオへの出演など、活躍の場は枚挙に暇がない。

なかでも番組の立ち上げに参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中のBSテレビ東京『エンター・ザ・ミュージック』（毎週土曜朝8:30）は2020年10月に7年目に突入、放送300回を超える人気番組。

2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

東大阪市特別顧問、滋賀県長浜市文化観光大使、きょうと城陽応援大使。

公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>

Programme

伊藤康英／古いスペインの歌によるディフェレンシアス [初演] (約11分)

Ito, Yasuhide (*1960) / Diferencias on an Old Spanish Song [premiere]

山下康介／蠢動のワルツ [吹奏楽版委嘱／初演] (約6分半)

Yamashita, Kosuke (*1974) / Waltz of Stirring Love [premiere]

松下倫士／ラメント～旧約聖書「哀歌」に基づいて (約7分半)

Matsushita, Tomohito (*1984) / Lament

Ph.スパーク／古い日本民謡によるリフレクション (約9分半)

Philip Sparke (*1951) / Reflection on an Old Japanese Folk Song

休憩

三浦秀秋／バロック・コンチェルト (約8分)

Miura, Hideaki (*1982) / Baroque Concerto

J.ヴァン・デル・ロースト／カンタベリー・コラール (約5分半)

Jan Van der Roost (*1956) / Canterbury Chorale

鹿野草平／交響曲第1番《2020》より第4楽章「叡智」

[吹奏楽版共同委嘱／初演] (約11分半)

Kano, Souhei (*1980) / Symphony No.1 “2020” — 4th movement “Wisdom” [premiere]

指揮：藤岡幸夫

Fujioka, Sachio, Conductor

本日の GWE のコンサートでは、本学で教鞭を執る作曲家の作品のみを集めてお届けします。吹奏楽作曲家として著名なお二人の海外の作曲家、そして、現在大いに活躍中の日本の作曲家、そこに私も加えさせていただき、全7曲で本日のプログラムを構成しました。これによって今の吹奏楽を俯瞰できるでしょう。

作曲者にはリハーサルに立ち会っていただき、作品の理解を深めてきました。また本日もご登壇いただき、お話を伺いながらコンサートを進めていきます。

なお、この解説のページは、作曲者による解説のほか、学生から作曲者へのインタビュー、私・伊藤康英からの「ひとこと」などで構成しています。多面的に作品を感じてもらえたら幸いです。

また、以下の二次元コードより、学生と作曲者による対談の動画をご覧ください。



本日のプログラムの構成は次の通りです。

前半最初に古いスペインのメロディーをもとにした私の作品、そして最後には古い日本のメロディーをもとにしたイギリス人の作品、という対をなし、そこに、ヨーロッパ由来の踊り「ワルツ」、さらに聖書由来の作品を置く。

後半は、「協奏曲（コンチェルト）」や「交響曲」と銘打ちながらもドラムセットを利用する2曲、その中に、イギリスのカンタベリー大聖堂の壮大なコラールを置いて構成。

また、解説にも触れている通り、冒頭の伊藤作品は鎖国をテーマにした《ぐるりよぎ》と同じメロディーを使っており、現在のコロナの騒動での世界的な「鎖国」を想起させ、最後の鹿野作品ではまさにこのコロナを描く。一方、ヴァン・デル・ロースト作品や松下作品の「祈り」は、現代に通じるところがあるだろう。

このプログラムの企画に賛同して下さった作曲家各氏に厚く御礼申し上げたい。

(伊藤康英)

伊藤康英

古いスペインの歌によるディフェレンシアス

Ito, Yasuhide (*1960) / Diferencias on an Old Spanish Song

作曲者による解説

1990年に作曲した交響詩《ぐるりよぎ》(Gloriosa, Symphonic Poem for Band)が、この30年間に多くのバンドで演奏していただいたことを、とても嬉しく思っています。

この30年間に、インターネットによる情報網が著しく発達しました。《ぐるりよぎ》を作曲したときは、入手できたわずかな資料から、日本にキリスト教や西洋音楽が渡来した時代に思いを馳せていました。しかし今は、様々な資料が容易に手に入りますし、古い時代の音楽についての興味深い研究も知ることができます。

16世紀スペインの作曲家・ピウエラ奏者であるルイス・デ・ナルバエス (Luis de Narváez, 1500頃~1555から1560)の作品も、CDが数種発売されるなど、よく知られるようになってきました。

ナルバエスは、今の「変奏曲」の前身とも言える「ディフェレンシアス」を作り上げました。その中の一つに、スペインのマリア讃歌を用いた作品「讃歌《オー・グロリオザ・ドーミナ》による6つのディフェレンシアス (Seys diferencias sobre el himno “O gloriosa domina”）」(1538)があります。このメロディーは、私の《ぐるりよぎ》第1楽章で用いたメロディーでもあります。

私は、幼少より西洋音楽に親しみ、学んできたこともあり、いつになっても西洋音楽への憧憬を抱き続けています。その思いを込めて、この古いメロディーを使って、私なりのディフェレンシアスを作りました。

16世紀前半の古い音楽は、今の私たちにはかえって新鮮に映るかもしれません。そこで、この曲の冒頭部と終結部には、ナルバエスの《6つのディフェレンシアス》から引用し、往時を感じてもらうことにしました。

主部には、《ぐるりよぎ》の第1楽章と同じように、13からなるディフェレンシアスが置かれています。

第8ディフェレンシアスのあとに静謐な美しさに満ちた中間部を置きました。サラバンドよりもっと遅い、できる限りのピアノシモの音楽。そしてその後は、民族音楽ふうの踊りの音楽、という分かりやすいシンプルな構成になっていますが、調の構造など、ちょっとした工夫をしてみました。

ところで、近年の新しい吹奏楽作品は、リズムや迫力や色彩に満ち、作曲技法や楽器法もかなり進化してきました。その一方で、メロディーを美しく歌い上げる機会が減ってきたように感じています。

この曲は、世界的な吹奏楽コンクールである WMC ケルクラード 2022 の課題曲 (ディヴィジョン 2) として作

曲しました。そのため、「何を課題とするか」を考えました。この曲には、テクニックを誇示するような部分はあまりありません。その代わりに、バンドのほんとうの美しいサウンドやハーモニー、そして何よりも「音楽的な表現」が求められます。

16世紀中頃に日本に伝来したキリスト教は、のちに禁止され、さらに日本は「鎖国」の時代に入り、海外との交流がほとんどなくなりました。そんな中で、おそらくは当時に日本に伝えられたであろう音楽はいつのまにか、メロディも歌詞も原型を留めないほどになってしまいました。それが30年前に作曲した私の《ぐるりよぎ》のテーマでした。

2021年現在、コロナのために全世界が「鎖国」をするという時代を過ごしています。今このメロディを使った作品を発表することに、不思議なつながりを感じるとともに、2022年には、ふたたび多くの人たちがケルクラードに集まれることを願ってやみません。

作曲家プロフィール



Ito, Yasuhide

作曲家。初演から30年以上となる交響詩《ぐるりよぎ》(1990)は、吹奏楽の世界的レパートリーとして知られる。オペラ《ミスター・シンデレラ》(2001)は、たびたび再演を重ね、「オペラというジャンルを知悉した」と評され、2022年2月19日、20日の日本オペラ協会による再演が決定している。また、オペラ《ある水筒の物語》(2019)は、NHKにてドキュメンタリーが放送された。ピアノ連弾曲集『ぐるぐるピアノ』シリーズ(音楽之友社)などのピアノ・アンサンブル曲集は10巻以上出版され、「ピアノの新しい楽しさを伝える楽譜」として話題となる。その他、《チョコレート・ダモーレ》、《木星のファンタジー》、《琉球幻想曲》といった器楽作品や、《あんこまパン》(林望)、《このみち》(金子みすゞ)、《貝殻のうた》(和合亮一)、《そこにあなたがいてくださることは》(野呂 昶)といった声楽作品は、多くのCDがリリリースされ親しま

れている。

一方、東京佼成ウインドオーケストラなど国内外の多くの吹奏楽団を指揮。ピアニストとしても、特に声楽の伴奏者として多くの歌手をサポート。高校の音楽教科書の執筆を行うなど、幅広い活動を繰り広げる。

東京藝術大学音楽学部作曲科、同大学院修了ののち、同大学ソルフェージュ科非常勤講師を20年以上務め、現在、洗足学園音楽大学教授として、当グリーン・タイウインド・アンサンブルの企画運営責任者を務める。他、常葉大学短期大学部音楽科客員教授、桐朋学園大学、尚美ディプロマコース各非常勤講師。くらしき作陽大学非常勤講師としてオペラのコレペティを務めたこともある。

日本音楽コンクール作曲部門入賞、クードヴァン国際吹奏楽コンクール入賞、サクソフォーンのための作品コンクール優勝、静岡県音楽コンクール・ピアノ部門優勝、奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞。日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞を二度受賞。日本ソルフェージュ研究協議会理事。

静岡県浜松市生まれ。浜松ゆかりの芸術家顕彰、浜松市やらまいか大使。《浜松市歌》(林望)、《伊達市歌》(和合亮一) 作者。www.itomusic.com

山下康介／蠢動のワルツ

Yamashita, Kosuke (*1974) / Waltz of Stirring Love

作曲家による解説

この曲は、本学で行われた「作曲家の祭典 2016」というコンサートのために書かれた、元は管弦楽のための作品です。そのコンサートでは「愛」をテーマにした新曲を、ということで、参加した作曲家の皆さんが、それぞれの「愛」の音楽を披露しました。正直に言って、私は十分に「愛」を語れるほどの経験も思想も持ち合わせてはおりませんが、自分なりの思いを作品に込めました。

そもそも「愛」というものは目に見えるものではありません。「愛」は感じるものだと思いますが、私にとっては得体の知れないものではないかと思っています。ここでいう「愛」には、いわゆるシンプルな恋愛的な側面もあれば、もっと大きな意味を持つ人間愛であったり、自然や物事をいつくしむ、といった意味も含まれます。また「愛」から生まれる感情も、そこにまつわる様々な事象も含まれます。

「蠢動」という言葉には「うごめく」といった意味があります。つまり「愛」によってうごめく何か・・・という意味を込めました。それはとても美しく、そして妖しく激しく、楽しく哀しくも可笑しく、時に恐ろしくまた儂いもの、ではないかと。

この度、吹奏楽版を新たに書かせていただきました。管

弦楽版から、少し構成を増やすなど、新たな装いとなっています。この曲を聴いて、皆さんがどんな印象をお持ちになるか、とても楽しみです。

今回、このような素敵な機会をいただいた伊藤康英先生、そして指揮の藤岡幸夫先生、またグリーン・タイウインド・アンサンブルの皆さまに感謝申し上げます。

作曲家プロフィール



Yamashita, Kosuke @Photo by Shinsuke Yamamoto

作曲家・編曲家。

1974年、静岡県生まれ。東京音楽大学作曲専攻卒業。映画「海辺の映画館〜キネマの玉手箱」[花筐／HANAGATAMI]「その日のまえに」などの大林宣彦監督作品に多く携わるほか、NHK連続テレビ小説「瞳」やドラマ「花より男子」、アニメ「ちはやふる」、特撮作品「海賊戦隊ゴーカイジャー」「仮面ライダーセイバー」、歴史シミュレーションゲーム「信長の野望シリーズ」などの音楽がある。

また、「題名のない音楽会」(テレビ朝日系)などにおいて多くの編曲を手掛けているほか、宮本亜門氏演出のミュージカル「太平洋序曲」「スウィーニー・トッド」などで公演音楽監督を務めている。

現在、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学客員教授。一般社団法人日本作編曲家協会(JCAA)理事。

インタビューを経て

(残念ながらプログラム締め切りまでの間に、作曲家による立会いのリハーサルの機会がありませんでした。コンサート中のトークをお楽しみください。)

ひとこと

同郷の後輩であり、浜松でのピアノ教室での同門でもある山下康介さんをここでご紹介できるのは嬉しい。彼のメロディーは多くの人に親しまれているが、吹奏楽の世界ではあまり知られていないかもしれない。しかし浜松

で開催された「バンド維新」への作品の提供など、数曲の吹奏楽作品を物している。今回は、オーケストラから吹奏楽へ書き下ろしていただいた。貴重なレパトリーとして、ぜひ多くの吹奏楽団に取り上げてほしい。

(伊藤康英)

松下倫士／

ラメント～旧約聖書「哀歌」に基づいて

Matsushita, Tomohito (*1984) / Lament

作曲家による解説

この作品は旧約聖書にある「哀歌」をテーマにしており、以下の物語に基づいて作曲しています。

「預言者が国の滅亡を預言するも、その栄えた国の人々は信じることなく、その上、預言を虚言したとして預言者を牢屋にいれてしまいます。しかしその預言が当たり、周囲の国が攻撃をしかけ、あっという間に滅びてしまいます。町はすっかり荒れ果て、生き残った男達は捕虜になり、町に残ったのは子供や老人だけ。食糧もなく、生きる術もなく、ただ死を待っている状態…」

荒れ果てた大地、戦い、後悔、そして死者への祈り、など多数の場面で成り立っています。途中では打楽器の特殊奏法や声による幻想的な場面も登場します。全体的に重苦しい雰囲気が漂っていますが、最後は大きな絶望の中で人々が抱く小さな光や希望を表現しています。

この作品は20人以下でも演奏できるように作曲しました。少ない人数ならではのアンサンブルや美しいサウンドを味わっていただけたら幸いです。

今回このような素晴らしい機会を与えてくださった伊藤康英先生、そして本日演奏して下さる指揮の藤岡幸夫氏、グリーン・タイウインド・アンサンブルの皆さまに感謝申し上げます。

作曲家プロフィール



Matsushita, Tomohito

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、2009年同大学院修士課程作曲専攻修了。卒業時に藝大同声会賞受賞。2014年東京音楽大学大学院修士課程伴奏科修了。

これまでに日本交響楽振興財団第29回作曲賞(5年ぶり8人目の受賞)、第5回北本ピアノコンクール最優秀賞、第22回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第2位、奏楽堂日本歌曲コンクール第19回作曲部門(一般部門)入選、第51回JBA下谷賞など多数受賞。

21世紀の吹奏楽“響宴”にて《パシフィック序曲》、《ラメント》など吹奏楽作品が取り上げられているほか、近年では《巡礼歌》、《土蜘蛛伝説》などのアンサンブル作品が全国各地で演奏されており注目を集めている。楽譜やCDの出版も多数。近年は器楽のみならず声楽や合唱曲、またアレンジにも携わっている。またピアニストとして2012年に日本コロムビアより『僕が僕であるために〜尾崎豊 オンピانو』(編曲・演奏)をリリース。2014年には『夢見草〜松下倫士ピアノソロアルバム〜』をリリース。ソロだけではなく、数多くの演奏家と共演も多く、高い信頼と評価を得ている。洗足学園音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。21世紀の吹奏楽“響宴”会員。

インタビューを経て

高校生に向けて作曲した楽曲にて、旧約聖書を題材にして作曲されるということに対して、最初は少々違和感を覚えた。少し高校生には難しい題材なのではないかと。しかし、松下先生がおっしゃる通り、高校の吹奏楽コンクールでは一夏を通して一曲と向き合う。そのため、作曲者としても勉強してもらいたい意図のある作品を作りたい、という話にとっても共感した。そしてその作曲者の意図を感じて演奏すること、感じてもらえる演奏をすることの大切さを改めて実感することのできたインタビューだった。

(Sax.4年 谷口綾乃 / Trp.4年 水谷樹里)

ひとこと

松下倫士さんを初めてお見かけしたのは、奏楽堂日本歌曲コンクールのときだった。その歌唱部門を審査していた私は、歌手さんの伴奏のため度々ステージに登場する男性の素晴らしく美しいピアノに聴き惚れていた。それが松下さんだった。一方、彼の確かな書法(エクリチュール)に基づく吹奏楽作品は素晴らしいもので、演奏には、繊細な表情が求められるのは、卓越したピアニストであることにも由来するのだろう。

小編成の吹奏楽のための作品ということと、とかく安易に書かれた作品が多い中で、この作品はテクニックがさほど難しくなく、表現する内容は広く奥深い。本日のプログラムの中で一番しそうにも見えるこの曲が、もしかしたら最も難しい作品かもしれない。本日はあえて小人数でお届けします。

(伊藤康英)

フィリップ・スパーク / 古い日本民謡によるリフレクション

Philip Sparke (*1951) / Reflection on an Old Japanese Folk Song

解説

スパークは、ウインド・オーケストラのみならず、英国式ブラスバンド、ファンファーレバンドなど多数の作品で知られる。

この作品は、東京吹奏楽団の委嘱によって作曲され、2015年9月26日、作曲者の指揮によって初演された。芸者衆により三味線伴奏で演奏されていた《推量節》のメロディーを中心として作曲されている。

1892年、当時の日本の軍楽隊長・永井岩井とサクソフーン奏者・小島賢八郎により『日本俗曲集』(Collection of Japanese Popular Music)が編まれ上梓された。ここに収められた28曲が、国外に紹介された最初の日本のメロディーと言われ、西洋から注目を浴びた。G.プッチーニ(1858-1924)は、歌劇《蝶々夫人》(1904初演)でいくつかの日本のメロディーを用いており、この《推量節》も用いられた。

なお、中間部に現れるイングリッシュ・ホルンのメロディーは、スパーク自身のもの。

推量節 (おひかりやぶし)
SUIRYO-BUSHI.
Allegro.
アラ シ ヤウ シ リヤウ カチチ
テーアラ シ ヤウ シ リヤウカワレ
シヤーロカレノツラキフ
サノヤ サノセーカチテコラレロカ
レカジツナキヨイヨーン
サヨイヤサジツトアサコラサヤト
セーセエアラ シ ヤウ シ リヤウ

『日本俗曲集』(1892)より



『日本俗曲集』（1892）表紙

作曲家プロフィール

1951年12月29日生まれ、ロンドン出身の作曲家。1991年に東京佼成ウインドオーケストラが委嘱により《セレブレーション》を作曲し、東日本大震災に際しては《陽はまた昇る》を贈るなど日本との関わりも深い。また、指揮者としても活躍の場を広げ、その範囲はヨーロッパ全土、スカンジナビア諸島、オーストラリア、ニュージーランド、日本、米国に及んでいる。

ひとこと

『日本俗曲集』では、五線譜のほか数字譜もつけられているが、残念ながら歌詞は日本語のまま掲載されているので、詩の意味までは伝わらなかったかもしれない。そこで、以前、2016年のグリーン・タイでこのスパーク氏の作品を取り上げた際に、こう書いた。

《推量節》はもともと、新潟県の魚沼地方発祥の歌とも言われる。そのメロディーが明治時代には《のんき節》にも取り入れられていたらしい。

歌劇《蝶々夫人》では特に、幕切れで蝶々夫人が自害するに及んで、このメロディーが高らかにユニゾンで奏でられ、大変に印象的である。

しかし、悲劇的なシーンで「のんき」とはこれ如何に。このように、もともとの民謡のテキストや音楽の内容とは全く関係なくメロディーを単なる素材として用いることはしばしばある。

しかしながら今回調べてみたところ、《推量節》の歌詞

は次の通り。

逢ふて嬉しや別れのつらさ 逢ふて別れが無けりやよい
今日の別れのつらさを知らば 逢はぬ昨日がましぞかし
別れて帰りや柳の芽よも ぬくむ涙の露のたま

こうしてみると、歌劇《蝶々夫人》幕切れに奏でられるこのメロディーは、もともとの歌詞の意味と重複して考えることもできると気がついた。

5年前に私が書いた解説のなんといい加減だったことが、いやはや申し訳ない。

(伊藤康英)

三浦秀秋／バロック・コンチェルト

Miura, Hideaki (*1982) / Baroque Concerto

作曲家による解説

タイトルの通り、バロック時代の音楽、および、その時代に流行した形式である「コンチェルト・シンフォニア」をテーマにした曲です。

曲中の主要な要素を大音量でいっぺんに奏する前奏に続き、ファゴットによる、「バロック時代風の」主題が奏されます。これに、同じくバロック時代を模した音楽的装飾が様々になされますが、そのほとんどは主題とは異なる調性を持つので、結果として一時的な複調が多く発生します。

楽器が段々と多くなってもう一度主題が奏される時に、もうひとつの主題とも言える、12音列のフレーズが高音木管に登場し、以降はこの2つの主題の絡みによって曲が展開します。

音楽が落ち着いた後、コラル風の第二主題が登場します。この第二主題が展開されている間は、先の12音のフレーズは調性的なものへと変奏され、第二主題と「調性的に」絡みます。

その後、主題は様々な調、あるいは音楽スタイルへと展開されますが、中でも特にスイングジャズ風への変奏で、12音のフレーズが面白い姿を見せるのが見どころでしょう。

一通りの展開のあと、主題が順次回帰しますが、ここで曲中を通して多用されていた、伴奏における [ド、レ、ミ♭] の和音が最も印象的に聞こえます。音楽は盛り上がったあと、テンポアップしてそのままコーダへと突入します。ここの装飾音の絡みによって複調であるため複雑に聞こえますが、構成はやはりバロック音楽を模して、シンプルです。

2017年、卓越したテクニックを持つ、浜松聖星高等学校吹奏楽部および、同部音楽監督、土屋史人氏の委嘱によって作曲。

作曲家プロフィール



Miura, Hidetaki

1982 年生まれ。東京都在住。中学・高校と吹奏楽部でトロンボーンを吹く傍ら作編曲に興味を持ち、次第にそちらの世界に踏み込むようになる。高校卒業後、専門学校東京ミュージック&メディアアーツ尚美に入学し、作曲を川崎絵都夫、松尾祐孝の両氏に、ポピュラー・ジャズ理論を篠崎秀樹氏に師事。2004 年 3 月、同校を卒業。現在オーケストラ、吹奏楽、各種商業音楽など幅広いジャンルに作・編曲をしている。

最近の目立った仕事としては、加藤登紀子、くるり等ポピュラーアーティストのためのオーケストラコンサートや CD のためのアレンジ、ヤマハミュージックメディア「ニュー・サウンズ・イン・プラス」編曲参加など。現在、洗足学園音楽大学講師。

2003 年、日本現代音楽協会「コントラバス・フェスタ」に公募入選、出品。

2004～5 年、2013 年、2017 年、「響宴」に入選、出品。

インタビューを経て

今回、初めて自分が演奏する曲の作曲家にインタビューすることができとても貴重な体験になった。

この曲は様々なモチーフが目まぐるしく変わる難しい曲で、バロックの要素からジャズの要素まで幅広く、作曲経緯やどこからインスピレーションを経たのかとても気になっていたの、作曲家のお話を聞けてとても勉強になった。

(Sax.4 年 加福夏子 / Sax.4 年 鹿島理功)

ひとこと

三浦さんは若い頃から編曲に卓越した才能を発揮しており、至るところで編曲者としてお名前を見かけるが、オリジナルの作品もなかなかユニーク。2005 年にシンガ

ポールでの WASBE (世界吹奏楽会議) に洗足の吹奏楽が参加した折にも、彼の《Salty Music (ソルティ・ミュージック)》をぜひ、とプログラムに組み込ませてもらった。本日とりあげるこの作品は、バロックふうであるとは言え、だいぶバロックとかけ離れる部分が多いのが面白い。そこで気づいたのだが、「バロック」とは「ゆがんだ真珠」という意味もあると言われること。なるほどこの曲は「ゆがんだ真珠コンチェルト」なのかと合点したのだが、さて、三浦さん自身はそこまでは考えていなかったっぽい。(伊藤康英)

ヤン・ヴァン・デル・ロースト / カンタベリー・コラール

Jan Van der Roost (*1956) / Canterbury Chorale

解説

ヴァン・デル・ロースト氏自身のブラスバンドでもある、ブラスバンド・ミデン・ブラバントの代表・ロバート・レヴューグ氏から委嘱を受けて作曲。イギリスのイングランド南東部ケント州のカンタベリーにある「カンタベリー大聖堂」を訪れた印象をもとに作曲。

1991 年に出版され、93 年に吹奏楽版とファンファーレバンド版が作られた。

作曲家プロフィール

1956 年 3 月 1 日にベルギー北部のデュッフェルに生まれた。非常に多才な作曲家で、吹奏楽だけでなく、管弦楽、室内楽、合唱曲などさまざまなジャンルの作品を作曲している。ベルギー初のイギリス・スタイルの金管バンドである「ブラスバンド・ミデン・ブラバント」の指揮者としても活躍中。

東京ミュージック & メディアアーツ尚美、名古屋芸術大学、洗足学園音楽大学客員教授。

ひとこと

関東第一高等学校吹奏楽部が 1994 年の吹奏楽コンクール全国大会で、塩谷晋平氏の指揮のもと、この作品を自由曲として金賞を得た、というエピソードがある。どうやら課題曲が難曲であったからという選曲だったのだろう。ちなみに、その 2 年後、私の《吹奏楽のためのソナタ》を課題曲として選び、塩谷氏率いる薔薇崇師ウィンドシンフォニーが演奏した際には、難しい課題曲のリハーサルに時間をかけ、自由曲にはあまりリハーサルのいらぬ《朝鮮民謡による変奏曲》(J.B. チャンス) を選んだよ、ということを出演直前に私に話してくれたことを思い出す。その後ご縁があり、私のピアノと編曲で《ラブソディ・イン・ブルー》(G. ガーシュウィン) などをご一緒する機会もあったが、塩谷氏は惜しくも 2012 年に逝去され

た。
今、吹奏楽コンクールの加熱ぶりは激化するばかりであり、1年間の休止を挟んでの今年度のコンクールでは、また数々の波乱が起こるだろう。そんな中で、もう25年以上も前になるコンクールでのこういった選曲法を、私たちは今、もう一度振り返るのも良いかもしれない。
(伊藤康英)

鹿野草平 / 交響曲第1番《2020》より第4楽章「叡智」 Kano, Souhei (*1980) / Symphony No.1 "2020" — 4th movement "Wisdom"

作曲者による解説

交響曲第1番《2020》(ニマルニマル)

制作年月日 2020年6月1日作曲開始
管弦楽版 2021年3月28日完成
吹奏楽版第4楽章 2021年6月2日完成

管弦楽版初演：2021年4月24日 杉並公会堂大ホール

松井慶太 指揮
オーケストラ・トリプティーク

本作は、2020年からのコロナ禍を描く交響曲であり、私のはじめての交響曲となる。

コロナ禍は、病原体としての被害のみならず、それ以上に我々の社会を混乱と分断との渦に巻き込んだ。自粛とステイホームの美德が叫ばれ、舞台芸術、飲食、観光は大ダメージを受け、多くの人が職を失った。子どもは部活動の大会や修学旅行・文化祭などの様々な機会を取り上げられ、大学は固く門を閉ざした。

私自身、2つの初演の機会が延期に追い込まれた。依頼もなくなり、私は社会から自分が「不要不急の存在」だと否定された心地がした。コロナ禍への不安と作曲家としての無力感から一度は鬱状態になり、一切の音楽活動を放棄してしまった。

5月下旬、私はショスタコーヴィチの『交響曲第7番《レニングラード》』の文献を紐解いた。国難に際し作曲家が成すべきこと、自分が成すべき事が重ね合わされている気がしたからである。『交響曲第7番《レニングラード》』は1942年に完成した交響曲で、第2次世界大戦の戦禍を描いた作品だ。ショスタコーヴィチは独ソ戦時下、政府からの疎開勧告

を断り、包囲されたレニングラードの中で作曲を進め、それは強制疎開を言い渡されるときまで続いたのである。文献には、包囲下で物資が不足しているにも関わらず、飢えと砲弾の恐怖に晒されながらも、懸命に文化を絶やさぬよう努力したレニングラード市民の姿の描写もあった。これを読んで私は、勇気を得、塞ぎ込んだ自分への少しの羞恥を感じた。

そして、作曲家としての社会での役目を果たすため、自分を奮い立たせるため、そしてコロナに立ち向かう人々を讃え犠牲者への哀悼を捧げるため、この状況を描いた交響曲の制作を決心した。

各楽章については以下のとおり。

第1楽章 「平和と脅威と」

楽しかった日常に脅威が忍び寄っていく様を表現している。新型コロナウイルス名である SARS-Cov2 のアルファベットが音名 (Es, A, Es, C) に置き換えられた「人類への脅威の音列」が低弦から提示された後、「平和な日常」と、「夜の街の活況」が現れる。「平和な日常」の動機は、我々が求めるべきものとして、この後もたびたび登場する。

「夜の街の活況」は、『スケルツォ第2番《夏》』等で私が長年取り組んでいる、プログレッシヴ・ロックやジャズを応用したアレグロで表現した。

第2楽章 「爆発」

人類への脅威が拡大し、爆発した様、それと社会の混乱と分断が表現される。「人類への脅威の音列」や「RNAの上行・下行音列」、無調化された「平和な日常」とそのベースラインなどが交錯し、圧倒的音響が展開される。

第3楽章 「哀歌」

犠牲者への哀悼と変わり果ててしまった世の中への嘆きである。冒頭のオーボエとイングリッシュ・ホルンの2重奏によって「哀歌」が奏される。その後、高弦によって「滴り落ちる涙の音型」、中低弦によって楽節のない「嘆きの旋律」が演奏されたのち、「哀歌」を tutti で歌い上げる。この楽章は新型コロナによって命を落としてしまった方々への哀悼であると同時に、コロナ禍によって自ら命を断った、とりわけ未成年の子どもたちへの嘆きが込められている。

(なお話は逸れるが、新型コロナは、高齢であればあるほどハイリスクとなる、本来大人が警戒すべき病気であり、子どもには迷惑をかけてはならない病気である。にも関わらず、社会は「若者が感染を広げる」と、子どもの遊びや学校・部活のイベントを、大人以上に厳しく抑

制した。

その結果子どもたちの間では精神的な不調がはびこり、2020年では、10代までの自殺数が例年の140%を越えた。この惨禍は紛れもなく大人の責任であり、社会は強く痛感すべきである。)

第4楽章 「叡智」

「哀歌」が怒りの主題となり、人類のたたかいと、穏やかなコラールや英雄的なマーチに変容された「平和な日常」の動機が、交互に展開される。

その後「怒りの主題」と「平和な日常」の動機が交錯したクライマックスを迎え、やがて「人類への脅威の音列」は消滅する。

長大なアダージョのコーダでは、長調化された「涙の音型」や「嘆きの旋律」とともに、「平和な日常」のコラールが輝かしく演奏され、全曲は幕を閉じる。

※本交響曲は各楽章ごとに単独での演奏が可能である。

この一年強で、皆それぞれの思いや考えなどが、今にも噴出しそうになっていると思う。その考えは個々に違う事は言うまでもなく、時には他者と対立するものでさえあるだろう。

ただ、この惨禍と人々の分断が終息（収束）し、あの楽しかった平和な日常が回帰することは、恐らく全ての人々の共通の願いであろう。

私は、いずれ人類が叡智をもってこの混乱を乗り越え、元の交流と活気に満ちた世界を取り戻す事を、固く信じている。

今回のご機会を頂いた伊藤先生と、演奏いただく藤岡先生とグリーン・タイ ウインド・アンサンブルの皆様にご感謝申し上げます。

作曲家プロフィール



Kano, Souhei

東京音楽大学に特待生として給費入学し、現代音楽の作曲を修めるかたわら、映画音楽や吹奏楽、管弦楽編曲を研究する。2004年に同大学卒業。2006年同大学院修了。2010年春に同人活動として新作オペラを自主公演し注目を集めた。

2009年に『吹奏楽のためのスケルツォ第2番《夏》』が翌年の全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅴに選定され、これを皮切りに吹奏楽作品を多数発表、出版。

これに並行して、TVアニメ『フラクタル』（2011）等の放送・劇伴音楽のコンポーザー、および映画・ゲーム等の管弦楽・吹奏楽コンサートのためのアレンジャーを歴任する。

近年では「ベストドレッサー賞」でのオーケストラ演奏の作曲・指揮を務めるなど、着々とその活動範囲を拡張させている。

インタビューを経て

「インターハイや甲子園の中止、修学旅行も延期や中止。若い世代にこれほどまでの制限をかけているにも関わらず、高齢者の中でクラスターが発生しても厳しい制限は行わない。そんな差別があってよいのか、そういった世間や政府に対する怒りをこの楽曲に込めた。」そう話す鹿野先生の言葉を聞き、私は衝撃を受けた。

初めてオーケストラ版の演奏を聴いたとき、確かに怒りや不安が表れているように感じた。しかしそれは、目に見えない未知のウイルスへの怒りなのかと考えていたが、実はそれだけではなかった。

当たり前だった日常が突然奪われ辛い思いをした人はたくさんいただろう。そうした人々のやり場のない怒りを音楽で表現したい。そしてクライマックスに向かうにつれ明るくなるメロディーに、人類の勝利や希望を感じてほしい。

(Cl.4年 洞口菜々子 / Trp.4年 水谷樹里)

ひとこと

一昨年、「鹿野草平」という名前を、洗足の教授会資料の中に、新任の先生として見つけたそのときに、このプログラムの企画を思いついた。残念ながら昨年度は実現できなかったが、一年経って、否、一年経ったからこそ、こうした新たな作品を紹介できるに至ったことを嬉しく思う。

(伊藤康英)

なお、11月30日（火）には作曲家・高昌帥氏を指揮に招き、グリーン・タイ ウインド・アンサンブルのコンサートを予定しています。

Members

洗足学園音楽大学グリーン・タイ ウインド・アンサンブル Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽授業。2009年、作曲家・伊藤康英と共に始動。作曲家の視点を交えた楽曲分析やこだわりの選曲が特徴。これまでに、ダグラス・ポストック氏とは10回にわたる「古典名曲シリーズ」を継続、日本初演、世界初演曲も数多く紹介してきた。また、ティモシー・レイニッシュ氏ら名だたる指揮者を招聘。藤岡幸夫氏がナビゲーターを務めるBSジャパンの人気クラシック番組「エンター・ザ・ミュージック」にもたびたび出演。また、台湾、シンガポール、韓国にて交流演奏会を行っており、広くアジアにも多くのファンを擁する。



2017年6月22日 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル(指揮:藤岡幸夫)公演

Concertmistress 石橋 優安 Inspector 洞口 菜々子 谷田 果奈美 福光 真由

Flute

足立 柚寿* 谷口 愛海 梅崎 真綾 榊原 里来 佐野 鈴菜 土持 志織 中川 彩
中川 花音 石川 裕葵 齊藤 麗 清水 花恵 山田 希宝

Oboe

宇治 愛 宮本 菜摘* 河村 玲於#

Clarinet

石橋 優安 洞口 菜々子 宮川 愛莉果* 山本 夢 大木 舞 上條 里彩 福永 愛華
伊藤 真緒 笠 歌純 末光 はるか トラングエン・ゴックアン 村松 優衣 矢ヶ崎 貴史
橋本 治樹♪ 二階堂 希美♪ 二瀬 結衣#

Bassoon

塩谷 花笑 加藤 彩音 上治 唯奏 平川 眞鈴*

Saxophone

鹿島 理功 加福 夏子* 藤堂 紗也 谷口 綾乃 伊東 玲美 岩城 玄仁 佐藤 葵
重井 拓人 高橋 星良 山岸 咲野 大幸 拓未 渋谷 瑛奈

Horn

浅田 万結* 半崎 愛理 梶田 茉朋 金井 亮介 大塚 季#

Trumpet

垣本 真夢 神山 巧弥 草野 あんず 居石 まどか* 長田 彩希 水谷 樹里 磯野 沙弥香
植田 優花 佐々木 右京 堀江 風雅 石井 華音 神山 柁紀 友野 楓

Trombone

浅沼 花寿美 高木 咲希* 出田 希乃 長坪 海斗 永吉 彩花 三浦 健 林天祺 宇賀那 晴臣

Euphonium

谷田 果奈美* 岩淵 由羽 清水 榛菜

Tuba

岡田 侑也* 下田 真寛 豊田 真悠子 寺崎 栞 遠藤 愛奈

Contrabass

高野 響花# 安田 廉#

Percussion

石川 歩 小栗栖 未久 佐竹 絵磨 福光 真由* 榎本 耀 大石 水紀 北山 絢萌
田代 万莉子 林 英希 林 拓海 福本 奏音 古橋 優実 前田 伶弥 村上 愛佳
八木 優弥 阿南 杏佳 大野 紗奈 小川 友李江 川崎 友仁 熊谷 彩夏 小山 梓

Piano

伊藤 康英

Harp

山内 悠里佳#

#…演奏補助要員 ♪…賛助 *…パートリーダー

合奏指導教員：伊藤 康英／瀬尾 宗利 企画運営責任者：伊藤 康英 アカデミックコーディネーター：大島 健太郎

洗足学園音楽大学
グリーン・タイ ウインド・アンサンブル
演奏曲目一覧

● 2009 年度

◇ 7 月 12 日 指揮：伊藤康英

諏訪雅彦 16 世紀のシャンソンによる変奏曲

伊藤康英 「昔の歌に寄せて」～ヴァイオリンと吹奏楽のための協奏曲（3 楽章版初演）

ヴァイオリン独奏：水野佐知香

伊藤康英 こきりこ行進曲

高 昌帥 パンソリック・ラブソディ

伊藤康英 広島朝の歌

(アンコール)

伊藤康英 木星のファンタジー

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇ 12 月 6 日 指揮：ダグラス・ボストック

N.dello Joio 中世の旋律による変奏曲

P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心

D.Bedford 波濤にかかる虹

J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲

Ph.Sparke ダンス・ムーヴメント

◇ 3 月 指揮：伊藤康英／ダグラス・ボストック

台湾新竹市・台北市（國家音楽廳）

管樂狂潮（台湾・新竹教育大学との合同演奏会）

伊藤康英 広島朝の歌

伊藤康英 地球

伊藤康英 台湾花束

● 2010 年度

◇ 7 月 21 日 指揮：ダグラス・ボストック

～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.1～

G.Holst 吹奏楽のための第 1 組曲 変ホ長調

D.Milhaud フランス組曲

I.Stravinsky エボニー・コンチェルト

クラリネット独奏：山本茉莉奈（4 年）

P.Hindemith 交響曲変口調

P.A.Grainger リンカンシャの花束

◇ 11 月 27 日 指揮：本名徹次

For the Green Earth 「展覧会の絵」～緑の地球のために

三善 晃 札幌オリンピック・ファンファーレ

矢代秋雄 吹奏楽のための祝典序曲「白銀の祭典」

野田暉行 吹奏楽のための典礼風序曲

伊藤康英 三部作「惑星」より「地球」

M.P.Moussorgsky 伊藤康英版「展覧会の絵」（2 台 8 手ピアノ、

サクソフォーン四重奏、混声合唱と吹奏楽のための交響的カン

タータ）

(アンコール)

トラディショナル（伊藤康英）アメイジング・グレイス

伊藤康英 一度っきりの人生

● 2011 年度

◇ 7 月 18 日 指揮：ダグラス・ボストック

～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.2～

夜から朝へ Night and Day

A.Copland エンブレムス

G.Holst 吹奏楽のための第 2 組曲へ長調

P.A.Grainger 民主主義行進の歌／コロニアル・ソング／ガム・サッ

カーズ・マーチ

武満 徹 ナイト・シグナル

伊藤康英 明けない夜は無い（世界初演）

A.Roussel 栄光の日

F.Schmitt ディオニソスの祭

(アンコール)

伊藤康英 にっぽんモーリス

◇ 11 月 26 日 指揮：増井信貴・鄭哲男・伊藤康英

高 昌帥 吹奏楽のためのラメント

西村 朗 秘儀 I 管楽合奏のための

保科 洋 吹奏楽のためのカプリス（2005 改訂版）

伊藤康英 サクソフォーンとユーフォニアムのための二重小協奏

曲「カーニヴァルの日」（世界初演）

サクソフォーン独奏：小林 悟（4 年）

ユーフォニアム独奏：幸崎 仁（4 年）

★台湾国立新竹教育大学（現・清華大学）管楽団と合同で

伊藤康英 相馬フェスティバル・マーチ

陳 樹熙 客家風狂詩曲（日本初演）

伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」

龍笛独奏：吉川真登

(アンコール)

高野辰之（伊藤康英）ふるさと（新編曲・初演）

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2012 年度

◇ 7 月 11 日 指揮：秋山和慶

伊藤康英 交響詩「コラール幻想曲」

長生 淳 香り立つ刹那

新垣 隆 吹奏楽のための小品

G.Gershwin（伊藤康英）ラブソディ・イン・ブルー

ピアノ独奏：伊藤康英

G.F.Handel（伊藤康英）王宮の花火の音楽より序曲

J.S.Bach（伊藤康英）シャコンヌ

(アンコール)

J.S.Bach（伊藤康英）G 線上のアリア（新編曲・初演）

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇ 12 月 15 日 指揮：ダグラス・ボストック

～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.3～

R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲（第 2 楽章として「海の歌」を含む）

R.Vaughan Williams 交響曲第 8 番より第 2 楽章「行進曲風スケルツォ」

P.A.Grainger ヒル・ソング第 2 番

P.A.Grainger フムフレイの若者たちの行進曲

V.Nelhybel トリティコ

K.Husa ブラハのための音楽 1968

(アンコール)

P.A.Grainger デリー地方のアイルランド民謡

● 2013 年度

◇ 7 月 3 日 指揮：秋山和慶

時は逝く As Time Is Passing On

兼田 敏 吹奏楽のための寓話

藤田玄播 天使ミカエルの嘆き

M.P.Moussorgsky（伊藤康英編曲）歌劇「ソロチンスクの市」

より「聖ヨハネ祭の夜」

伊藤康英 貝殻のうた

高 昌帥 優しい花たちへ

伊藤康英 交響詩「時の逝く」

(アンコール)

にっぽんモーリス

◇ 11 月 11 日 指揮：ダグラス・ボストック

吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと Vol.4

アメリカへ An American Connection

D.Milhaud ウェスト・ポイント組曲

P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心

A.Schoenberg 主題と変奏

黛 敏郎 打楽器協奏曲

V.Nelhybel 復活のシンフォニア

● 2014 年度

◇ 7 月 12 日 指揮：ダグラス・ボストック

～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.5～

P.A.Grainger モールバラ伯爵のファンファーレ

R.Vaughan Williams トッカータ・マルチアーレ

G.Holst ハマースミス 前奏曲とスケルツォ

D.Bedford 波濤にかかる虹

P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」

三善 晃 スターズ・アトランピック'96

J.Absil 祭典 op.79 (日本初演)

◇7月21日(吹奏楽の祭典) 指揮:大滝 実
S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章(新編曲・初演)

◆12月7日 指揮:増井信貴/プレトーク:滝澤尚哉・伊藤康英

フェネルがわたしたちに伝えたかったもの What Fred Told Us

C.Williams ファンファーレとアレグロ

R.R.Bennett シンフォニック・ソング

G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲

J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲

伊藤康英 管楽器のための序曲

R.Strauss (伊藤康英) 万霊節 op.10-8 (新編曲・初演)

R.Nelson モーニング・アレレヤ

群馬県民謡(岩井直溥) 八木節

J.P.Sousa 海を越える握手

H.Fillmore ヒズ・オナー

(アンコール)

伊藤康英 Get Well, Maestro

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2015年度

◇6月24日 指揮:藤岡幸夫

J.Barnes 祈りとトッカータ

S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章

西村 朗 秘儀III—旋回舞踏のためのヘテロフォニー

伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ゴー・フォー・ブローク」

R.Wagner (伊藤康英) 歌劇「ローエングリン」第2幕より「エルザの大聖堂への行列」(新編曲初演)

R.Schumann (伊藤康英) 歌曲集「ミルテの花」より「献呈」(初演)

A.Reed 第2交響曲

(アンコール)

A.Reed 第2組曲より「ソーン・モントゥーン」

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック

吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと Vol.6

チェコからの風 The Czech Connection

L.Janáček「シンフォニエッタ」よりソコル・ファンファーレ

K.Husa アル・フレスコ

V.Nelhybel 吹奏楽とピアノ独奏のための「トッカータ・フェロウ

チェ」(日本初演)

ピアノ独奏:遠藤龍軌(2年)

A.Reed アルメニアン・ダンス・パート2

伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトン、ソプラノと

吹奏楽のために(日本初演)

バリトン独唱:泉 良平(客員教授)

ソプラノ独唱:伊藤紫央里(本学卒)

Eb コルネット:植竹祐太(4年)

P.A.Grainger 固定されたド(自鳴するC)

F.Ticheli エンジェルス・イン・ジ・アーキテクチャー

ソプラノ独唱:伊藤紫央里

(アンコール)

J.Fučík フロレンティーナ行進曲

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2016年度

◇7月15日 指揮:藤岡幸夫

吹奏楽傑選 藤岡幸夫と伊藤康英が選ぶ神7!

三善 晃 吹奏楽のための「クロス・バイ・マーチ」

J.A.Caudill バンドのための民謡

R.Jager シンフォニア・ノビリッシマ

F.Schubert (伊藤康英) アヴェ・マリア(エレンの歌 第3番)(新

編曲・初演)

河辺公一 高度な技術への指標

L.Bernstein プレリユード、フーガとリフ

クラリネット独奏:大森雅弘(4年)

V.Nelhybel 復活のシンフォニア(V.Nelhybel)

伊藤康英 吹奏楽のための序曲「平和と栄光」

副指揮:竹内健人(4年)

(アンコール)

カタロニア民謡(伊藤康英) 鳥の歌(新編曲・初演)

トロンボーン独奏:松原昇平

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月6日《指揮:ダグラス・ポストック》

~吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと vol.7~ 温故知新 Old

Wine in New Bottles

G.F.Handel「王宮の花火の音楽」より序曲 ブーレ 歓喜(新編

曲・初演)

Ph.Sparke リフレクションズ~ある古い日本俗謡による

伊藤康英 津軽三味線協奏曲

津軽三味線独奏:山中信人(本学講師)

津軽三味線合奏:稲沢栄梨 谷川祐司 塚本 鷹 塚本準也 横田

匡

P.A.Grainger リンカンチャーの花束

E.Gregson 剣と王冠

●2017年度

◇6月22日 指揮:ティモシー・レイニッシュ/藤岡幸夫

P.A.Grainger 民主主義行進の歌

G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲

J.S.Bach (伊藤康英) シャコンヌ(2017新編曲・初演)

K.Hesketh ダンスリーズ

L.S.Alarcón ドウエンデ 吹奏楽のための4つの前奏曲(日本初

演)

A.Gorb イディッシュ・ダンス

(アンコール)

J.Brahms (伊藤康英) 日曜日/恋人のもとへ

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック

古典名曲を名匠ポストック氏と Vol.8

イギリスとフランスとの長い戦争の歴史を振り返りながら、今、

考える平和。Anglo-French Gala

L. van Beethoven (伊藤康英) 交響曲「ウェリントンの勝利または

ヴィットリアの戦い」作品91(新編曲・初演)

R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲

F.Schmitt ディオニソスの祭

D.Milhaud フランス組曲

伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲(世界初演)

E.Gregson 王たちは出陣する

(アンコール)

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇2018年3月9日 指揮:伊藤康英/ダグラス・ポストック

台湾新竹市

管樂狂潮(台湾・清華大学との合同演奏会)

伊藤康英 煌夜~祭の幻想

伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲

伊藤康英 交響詩「ぐるりよざ」

A.Reed アルメニアン・ダンス パート1

P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」

Ph.Sparke 宇宙の音楽

●2018年度

◇7月1日 指揮:ティモシー・レイニッシュ

ティモシー・レイニッシュ 80歳記念

戦争と平和 War and Peace

A. Gorb アウェイデイ

G.Woolfenden イリュリア人の踊り(日本初演)

D.del Tredici 戦時に

L.S.Alarcón コンチェルトタンゴより第1楽章(日本初演)

アルト・サクソフォーン独奏:荒木真寛(4年)

伊藤康英 タイム・イントウ・ミュージック(日本初演)

C.Marshall ロム・アルメ(武装した人) 変奏曲(日本初演)

(アンコール)

メンデルスゾーン(伊藤康英) 歌の翼に(新編曲・初演)

伊藤康英 にっぽんモリス

◇12月11日 指揮:ダグラス・ポストック

グリーン・タイ 10 周年記念

吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと Vol.9

リジョイス! 祝賀 Rejoice!

伊藤康英 吹奏楽のための祝祭曲「集え、祝え、歌え」

O.Waespi 讃歌 (日本初演)

J. シュテルト バッハザイツ

A.Hovhanness 交響曲第 53 番「星の燭光」作品 377 (日本初演)

V.Nelhybel The S-S-S (砂粒・静けさ・寂しさ) (世界初演)

真島俊夫 三つのジャポニスム

● 2019 年度

◇ 6 月 25 日 指揮: ティモシー・レイニッシュ

R.Vaughan Williams (ed. F.L.Battisti) トッカータ・マルチアーレ

P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心

高 昌帥 ウインドオーケストラのためのマインドスケープ

伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトンと吹奏楽のために (日本初演)

バリトン独唱: 泉 良平 (本学客員教授)

K.Hesketh ダンスシリーズ (セット II)

A.Gorb クレタ島の舞曲

(アンコール)

L.S.Alarcón TIM〜ブリティッシュ・パソ・ドブレ (日本初演)

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇ 12 月 10 日 指揮: ダグラス・ボストック

V.Nelhybel アンティフォナーレ 金管六重奏と吹奏楽のために

P.A. グレインジャー コロナリアル・ソング

松下 功 天空の祈り〜とうとき命に〜

伊藤康英 ピース、ピースと鳥たちは歌う

G. ホルスト ハマースミス 吹奏楽のための前奏曲とスケルツォ

Ph. スパーク 宇宙の音楽

(アンコール)

P.A. グレインジャー 岸辺のモリー

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2020 年度

(前期コンサートは、COVID-19 の影響により中止)

◇ 12 月 1 日 指揮: 藤岡幸夫/伊藤康英

A.Reed 音楽祭のプレリュード

L.Serrano Alarcón 小組曲 (日本初演)

L.Serrano Alarcón 演奏会用パソドブレ「ラ・リラ・デ・ボズエロ」
(日本初演)

C.T.Smith フェスティヴァル・ヴァリエーションズ

R.Kurka 組曲「善良な兵士シュヴェイク」Op.22より

序曲 ラメント フィナーレ

伊藤康英 交響詩「ぐるりよご」より第 1 楽章

Ph. スパーク ドラゴンの年

(アンコール)

伊藤康英 悲しみから歓びへ (3 声のカノン)

伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。